

10/61



會 報

舞 台 照 明 家 協 會

— 目 次 —

☆私はこう考える☆	天野 万助	(1)
舞台照明家協会の行くべき道	吉村 元成	(3)
卒直な意見	小川 俊明	(4)
∧“Stage Lighting Practice”より∨		
アメリカに於ける舞台照明家の現状	小川 俊明	(4)
電球光源の色温度	丸茂富治郎	(6)
日比谷公会堂	丸茂富治郎	(6)
舞台監視用テレビジョン (ITV) に就て	阿部吉之助	(8)
一つの眼と無数の眼	土村 晶	(9)
トビックス	丸山 久郎	(10)
福祉厚生委員会報告	丸山 久郎	(11)
私の履歴書	松浦光次郎	(12)
フリーの人達の問題について	小川 昇	(14)
新入会員名簿	小川 昇	(15)
∧私論∨		
舞台照明と舞台照明家	大野 洋	(16)
編集を担当して	沼田 勝夫	(21)
声	沼田 勝夫	(21)
追 悼	小川 昇	(22)
表 紙	小川 昇	(24)
カ ッ ト	有賀 二郎	
	大田 弘道	

☆私はこう考える☆

舞台照明家協会の行くべき道

天野万助

舞台照明家協会も結成してからもう四、五年にもなったのに何等進歩も発達も認められないではないか、という声をよく聞くのであるが、この原因はどこにあるのであろうか？

これはいうまでもなく会員一人々々の熱意と協力の不足が生んだ結果に外ならないと私は考えている。

そこでこの事実を克服して進まないならば何日になっても同じことを繰返すのみで最後は団体の解散という憂目を見ることは必定で、我々会員はこゝらで心機一転して舞台照明家協会の今後行くべき道を今年は大いに研究しようではありませんか。

そも／＼我々がこの協会設立を提唱した理由は戦後舞台照明技術が酷く低下しぜん／＼経験も勉強もしたことのないような人達がスポットを操作したり、舞台照明が何様なものであるかも知らないような人達がプランナーと称してプランを立てたりするようなことが平気で行こなわれていたことが第一の大きな原因であ

る。そのほかもう一つ舞台裏関係者のうち演出家、装置家等はすでに団体を作っているにもかゝらず我々のみが団体も組織もなく、いろいろな点でマイナスのことが多いということの二つの原因があつて、これ等を解決するにはどうしても団体を作つてその力に頼るほかにい

とがわかつてきたのでその話が二、三の人達から出たのがきっかけで二十九年頃から何回か発起人会を開いて検討した結果三十二年十月始めて東京が結成されたようなわけで、その間私は大阪の人達と二回、名古屋の人達と一回東京の会則その他の資料を持参して話合つたような次第で東京、大阪、名古屋ともにだいたい同じような時期に発足したわけである。

その時から私は将来クラフトユニオンかあるいはこれと同等の力を持つことのできる組織までもつて行くべきであると考えていたのであるが、さて団体を作るとなると諸々のことがあつてやむをえず文化団体といったような結成になつたわけ

で、徐々に我々はこの団体を直接有効な

利益をもたらす理想の団体に近づくよう努力しなければならぬと思う。

ではいったいクラフトユニオンあるいは、これと同様な組織がどうして必要であるかというところを現在よくいわれて

するには組織を完全強固なものとし、会員はお互にその組織のルールに違反しないことが重要な要素となるもので、そのためにも組合組織であるクラフトユニオンにすることが一番好ましい方法である

いるところの予算がないからプラン料を負けてくれとか半分にしてくれとかいわれて不得已承知しているようなことが非常に多いことは諸兄も御承知の通りであるが、このプラン料なるもの芸術である以上定価はなく話の如何では負けられるものと一方的に考えられて、いるばかりで、これによつてプランナーは生活しているということを見られて、いるのが原因である。我々はこの点大いにPRすることが肝要と心得なければならぬ。

ではこれ等を是正するにはどうしたならば、よい解決が得られるかというところ、これは団体の力によつてPRすることが一番理想である。そして将来団体が一切の仕事の申込受付を引受け個人は直接仕事を受けられないようにするならば完全な解決ができるものと思う。しかしこれを実施

するには組織を完全強固なものとし、会員はお互にその組織のルールに違反しないことが重要な要素となるもので、そのためにも組合組織であるクラフトユニオンにすることが一番好ましい方法である

と思う。このように組織が確乎たるものになるならば、前記のようなプラン料の割引とかなんとかいうことは飽くまで排撃もできるし素人の人達がかつてプランナーの仕事をするのも防止できると思う。又一方オペレーターやスポットマンにしたところが、この組織で教育機関を設けて訓練し一人前の技術を修得したる後就業させるようにするならば、素人が技術者のような顔をして仕事をすることもなくなるであろう。そのうえ組織外の人達が勝手に就業することも排除できることは確実である。これは余談にわたるが聞くところによると米国あたりではクラフトユニオンの組合員達は組合員以外の人達がその職業に従事することを防止することに懸命で例えばペンキ塗装工の組合員が組合員以外の人が、ペンキ塗

りをしてゐる所を発見したとき、必ずその会員はその人に注意して組合員でない者がその仕事をやめてくれと申入れ、その人がどうしても仕事したいというときは会費を払って組合員になつてほしいとまで申入れするという努力ぶりです。それが自分の家の塀塗りであつても会員になつてから塗るようにしてほしいとまで申入れるとの話である。我々も大いに見習うべきではないかと思う。ところで私はこの団体をクラフトユニオンにすることを簡単に書いてはみたものの、問題はなかなか難しいことで、たやすく実現はできないものとお互いに覚悟しなければならぬことである。だからといって、そのままにしておいたならば何日になつても発展も進歩もないのである、難関はいつか誰かが突破して行かなければならぬと私は考へている。

こゝで私は現在クラフトユニオンではないがこれと同様な効果をあげている、団体の実体を披露するから、これを参考にして大いに全員で研究しこの理想に近づく資料にされたいと思う。

その団体は〇〇技術者連盟の〇〇県支部で昭和二十三、四年頃発足したものであるが中心になる幹部の人達全部が大変な努力をして県下の全技術者を会員としたことでユニオン以上の力を出すことができ現在経営者を相手取り就業者の定員数の確保、資金の改定に至るまでを団体

の力で獲得してゐる。その上最近は相互扶助で老後保障まで始めてゐるのである。これをそのまゝ我々の団体に当嵌めることはできないと思うが努力のいかんではこゝまでいき得るのであるから、照明家にしたところが努力次第で我々の理想とまでは行かなくとも、ある程度のことではできると思ふから大いに会員の諸兄全力を上げて努力しようではありませんか。何事もやらないで、役員がなにもしないからと、いうようなことは私に言わせれば何をいつてるのか片腹痛いと言ふほかに、ことに会費も払わずに兎や角言ふに至つては言語同断と、言わざるを得ないである。何んとなれば役員は我々会員の日常会務を代行するにすぎない人達で我々の幸福を造る人達ではない、それは会員が一致団結して始めてその力が大きくなりその大きな力を活用してこそお互の幸福がお互いにかえつてくるもので、団体を役員のものゝように考へたり会費さえ払つていれば、なんとか、なるように思つたり、会費も払わずに会員のよう

な顔をしたり、するようなどでは善い結果は現らわれてこないものである。こゝの理論をよく理解し大いに努力して照明家らしく行手を明るくしようではありませんか。

最後に舞台照明協会のクラフトユニオンあるいはこれと同等以上の力を出し得る団体までに成るために、一番難しい問

題で皆でよく研究しなければならぬ点をこゝに指摘するからこれをよく研究してよい結論を出してもらいたいと思う。

第一クラフトユニオンは現在までの日本労働組合史上では完全な実現を見ていない、これは日本の労働組合運動そのものが自然に発達したものでなく戦後進駐軍の占領下において軍の力によつて急にに発達したため諸外国の例に見られるような単一組合から職業別組合その次に産業別組合という発達を見ないで単一組合からいきなり産業別組合という異例の順序で発達したためである。このため団体がユニオンとなるには現在の単一組合が大きな痛であること。

第二この団体の会員はその一つ会社の組合に所属してゐる、いわば社会保障制度(健康保険、退職金等)の恩恵に浴してゐる会員。その二つこういつた社会保障制度の全々なフリーランサーの会員。その三つ経営者的な立場の会員と三種類もあつて利害得失が一致しない、これも大きな痛となつてゐる。

以上二つの問題を研究しよい結論を出したならば必ず私の申上げたことが実現できるものと思う。

どうぞ会員諸兄この問題点をよく研究しその結論発表をこの会報にのせて下さい。大いに公開討論を行い会員全部の啓蒙をかねてよりよい結論を出そうではありませんか。

私もこの問題について少々研究してゐるから次の機会に発表させてもらうつもりであります。

これで終りたいと思つたがも一つ提案したい大きな問題を忘れていたので最後ではあるが書き加へさせていただきます。

これは簡単にいふならば全国統一した団体を作らなければ、ならないということである。この問題については最初私は全国組織を作つてその中で東京、大阪、名古屋を支部形態にする考へていたのであるが現在のような各自別々の団体を作つてしまふ辛うじてなんにもならないマーカーだけが統一されたのみであるがこれではすべての点でマイナスが多いと私は考へてゐるがこゝに至つてはなかなか統一は難しいと思う。そこで少なくとも協議会的なものでも作つて共同の問題を討議して行かないならば全国的に見ては少ない会員がばらばらになつて各団体ごとにちぐはぐなものができひいては他に対する力が弱くなり前に申上げたことは一切無駄となる結果が生ずると考へるものである。

この協議会の実現は簡単に解決ができると思ふからすぐにも現役員は持つて実現されることを望むものであります。

以上で私の言いたいことを言ひつきました。月並でありまた拙文で申訳ありません、分かりにくい点が多々あると思ふが悪しからず判読して下さい。

卒直な意見と申しまして、舞台の照明をやっていたら、私達TVの照明だけをやってる者とは、いろいろな点で意見や考え方が異なってくると思います。

例えば、現在のTV照明は黑白テレビからカラーTVへの過渡期にあります。技術的にも企業的にも研究の段階にあります。この二つの点について、私の考へを記してみよう。

まず第一に技術的な立場ですが、TV放送が始まって八年になります。この間のTV界の発達を目をみはるものがありました。照明界に於ても、舞台の経験のないTVだけで育った照明家が一人立ちして来ました。これらの人たちの生育と共にTV照明と云う一つのジャンルが育ちました。舞台照明や映画照明の手法を採り入れ、しかして一つの新しいTV照明法が育ったわけです。しかし良い画調の画面を放送すると云う一つの目的は達することが出来ましたが、内容を解釈してその番組に適する画面を形成するという点では各人の勉強にもよりますが、完全とは云いがたいようです。その点に於ては舞台照明出身の方が内容をつかむのが早いようです。これらTV出身の人達の勉強も一つの問題ですが、もう一つの点ではTV照明を担当している人達の年令の若さにも問題があります。TVはどここの局でもそうですが社歴が

浅いのと同時に、働いている人達も若い人達がほとんどです。とりわけ照明担当者は若い人が多いので、スタッフとしての地位が他の部門に比較して軽視されがちです。これは年月が自然に解決してくれらるでしょうが、それを待っているのではなさない話です。局の人としては照明という仕事の重要性は誰しも認める所なのですが、照明担当者としての地位は軽視されがちです。番組を制作する上に

言の機会を持つようにしなければなりません。これも一つの問題なのですが、二、三の局を除いては照明担当者の名前が画面に出ません。照明が技術局に属するからにはテクニカルディレクターによって代表されてしまい、デザイナーの名前は出ませんが、照明はテクニカルディレクターの下にあつて名前が出ないわけです。この場合もセットデザイナーとは対等ではなく一段下になっているわけです。一

卒直な意見

フジテレビ

吉村元成

は各部門と対等の立場で発言する必要があるので、年令の若さが逆に作用して好結果を生んでいません。若い事業なのですがあまりにも若いという事が悪作用しているわけです。これをさけるには照明という部門の地位向上を局内で認めさせなければなりません。たとえ相手は年令の上でも、部門代表としては対等に仕事をしなければならぬのですから、若さをこくふくするだけの勉強や発

つ番組を制作するのに重要な要素を占める部門なので、舞台や映画と同じように担当者の名前を明示すべきだと思います。責任の所在に対しても名前を出すべきで、今後局内で照明の地位を認めさせる必要があるわけです。勿論これには前に述べたように、他の部門と対等にやっっていくだけの勉強と発言力の強化が先立ちます。

第二にはTVの将来の問題です。TV企業は御存知の通り多くの人間が必要で、経営者としては多大の人員費が要ります。経営者は人員費の増加を喜びませんが、企業の安定の上からは当然だと思えます。この一つの行方として近い将来プロダクション化が起きてくると思えます。その時になって照明家が一つの団体として行動しなければバイヤースマーケットになってしまい買たたかれることにもなります。アメリカのユニオンのように団体として一つの権威があれば、そのような問題も起きず、働く者にとつても安心して仕事にはげめるわけです。アメリカのユニオンのように権威があればTV局で働く規準も作れると同時に守ることも出来るので、局の人間として安心して働けるわけです。現状では局によって一つのスタジオで働く人数もちがいで、労働力が一定していません。このままですと、TV局の経営が先づまりになって来た時に照明にもしわ寄せがやって来ます。労働時間が週四十時間、週休二日というような時勢に反比例して、労働時間の強化をしいられるわけです。

照明家協会が出来たのですから、ユニオンのような性格を与える事などで、照明家としての地位の向上や労働時間強化による芸術性無視の傾向を打破し、安定した生活基盤による芸術性の発揮できる場を照明家に与えられるよう望みます。

“Stage Lighting Practice” より

アメリカに於ける

舞台照明家の現状

小川俊朗

アメリカ舞台関係の職業組合として知られるユニオンについて、かなり詳細な形が分つたので御紹介します。現在ブロードウェイで上演される公演の照明は、だいたい三つの形態で行われている。

- 一、殆んどの場合、舞台装置家がユニオンに属する電気係の協力のもとに照明を担当する。
- 二、特別に数回の公演を同じ電気係と

仕事をともにする時、舞台装置家は電気係に照明の責任を負わせる場合がある。

三、照明専門家がプロデューサーや舞台装置家と直接契約する方法が増加している。

プロデューサーが舞台装置家の他に照明専門家を雇用するのは、

一、プロデューサーがその照明家の仕事を特別によく知っているか、又はその仕事を好む場合。

二、プロデューサーが照明家を雇用する事によって明らかに金銭的損失を少くする事が出来ると考えたとき。

三、舞台装置家が照明に不安を持つとき、プロデューサーに照明家の雇用を進言する。特に複雑な照明を要求する場合など。

四、外国のデザインによる再演でも、すでに上演されたデザインやスケッチが模写されていても、ニューヨークに於ける上演にはユニオンに属する舞台装置家が参加しなければならぬ。

舞台装置家はその装置の設置と照明管理の基本的な責任を負う。同様に外国の劇団の上演にもこの方法がとられる。

アメリカの舞台照明担当者は、全国劇場被備者同盟 International Alliance

of Theatrical Stage Employees の会員である電気係と、合衆国舞台美術家組合 United Scenic Artists の会員であるデザイナーであつて、如何なる商業劇場の公演でも、ユニオンに属するデザイナーと電気係を雇用しなければならない。

主任電気係のユニオンによる最低保証賃金は週一二五ドルであるが、ニューヨークではこの保証で働く人はなく、だいたい週一五〇と三〇〇ドル以上をとつて

いる。一人の電気係は二面以上の配電盤を操作出来ないで、それ以上は二面の配電盤毎に一人の補助電気係を雇用するこのアシスタントの賃金は前の最低保証賃金に近い。ユニオンに属する電気係の保証賃金が高い様に思われるが、その仕事は多分に時期的な性格を持つており、

技術を要求される上に、その仕事に対する長期の訓練が必要とされるのである。彼等は、その年の残りの非雇用期間の生活のために、劇場の最盛シーズンの間に自分の才能を充分に高く売らなければならないのである。

だいたい一パイ装置の芝居は二名の電気係を必要とする。また多くのミュージカルは七〜八名で行われる。例えば南太平洋は八名であつた。そのうちの数名例えば三名位は小屋づきの電気係でその費用は劇場使用料の中に含まれている。小屋づき電気係は原則としてその劇場の配電盤だけを扱い、その公演のために設置

された照明器具は操作しない。それ等及びフォロースポットはその公演で契約した電気係が操作する。電気係は音響関係水を使用する効果、電気的的操作による特別効果等種々雑多な電気設備に関して責任を負つてゐる。

次にすべての商業的な舞台装置・衣装・照明のデザイナーは舞台美術家組合の会員でなければならない。このユニオンの会員になるためには入会試験を通過しなければならない。試験は断続的にだいたい一年に一回ほど毎年行われる。受験料は二五ドルで、それに少くとも五〇〇ドルの二分の一の供託金を納める。供託金は落第者には返還される。

試験は志願者が基本的な装置衣装照明のデザイン及び職業としての雇用に値する彩色技術を身につけたかどうか、ユニオンの試験委員会が調べるものである。この広範な試験を通じて志願者を承認する事は、装置・衣装・照明デザイナーとしての資格を与える事になる。しかし一つの分野にのみ限つて資格をとる事も可能である。例えば衣装デザイナーとしての試験だけを受ける事が出来る。照明はまだ独立したデザイン技術としてユニオンに於て組織化されていないので、照明デザイナーとしての資格だけを得る事は現在のところ不可能である。それ故ユニオンの舞台装置家としての最低の基準に適合する志願者だけが照明家としての資



舞台及テレビスタジオ照明機械器具
 螢光灯調光装置
 社交場各種照明装置
 ミラーボール及電飾装置

設計製作

渋谷区伊達町63

株式会社 電照社

TEL (441) 6782・9042

格を得る事が出来る。ユニオン会員で大

いに活躍している照明家の多くは、二回以上試験を受け、かなりの時間と金を試験通過のための水彩技術とデザイン技術に費やして、やっと成功した人である。

過去の二日間にわたる試験は、試験期間内に時代的な装置・衣装デザイン及び照明。それに透視法、割り図製作、彩色美術、衣装、家具、建築、装飾に関する時代的な知識の筆記試験等を含んでいる。

舞台美術家はユニオンに加入すると一ヶ月に四ドルと、その月の収入の一パーセントをユニオンに納めなければならぬ。そうしてユニオン会員には次の特典が与えられる。

一、資格保証証書。

二、一定な仕事を行うための条件を保護する。ユニオンの標準約定の使用。

三、ユニオン会員作品である事を示すゴム印の使用とその作品のユニオンへの登録。

これはデザインの模写複製を妨ぎ、実際上の著作権保護である。

四、デザイン料の最低はユニオンにより定められている。

デザイナーは同業者とのデザイナー料についての値引き競争から保護される。支払われる金額の上の制限はないので、デザイナーに従って要求額が支払われる。

五、ユニオンは会員の仕事を保護する

ユニオンの会員でなければプロードウエイのプロデューサーから雇用される事はない。またユニオン会員以外のデザイナーからの注文を IATSE (全国劇場被備者同盟) は受けつけない。従ってユニオン会員でないデザイナーを雇用したプロデューサーはユニオンに入している劇場では仕事が出来ない。

以上のような閉鎖的なユニオン組織のおかげで、ニューヨークでは特定の照明専門家と云うものが育成されてきた。

照明家が舞台照明家に雇用される場合その最低賃金はだいたい週一六〇ドルである。この場合照明家は舞台装置家のアシスタントになり、プロデューサーの直接雇用者ではない。多忙な商業舞台装置家は、その最多忙期に一〜三名のアシスタントを雇う。アシスタントは割り図を画くほかに、照明の責任を持たされる事があり、初心のデザイナーがこの機会に経験を積むのである。

照明家がプロデューサーによって特定の公演に雇用される場合は、その公演の平均賃金に従わなければならないが、ユニオンは最低賃金として舞台装置家の一セットに対する最低賃金の少くとも二分の一を支払う様規定している。即ち照明家は最低四二五ドル以上を受取る。一パ

イ装置以上の規定はない。実際にはその公演の大きさ及びその照明家の評判などで、最低の四二五ドルと三〇〇〇ドルの範囲が支払われている。

もしもその公演が旅に出たり、また次の一座が結成されたりすると、照明家はユニオンの約定に従って一回の再公演について、始めの賃金の二分の一を受取る。

ニューヨークの多くの照明家は照明の他の収入源を持っている。例えば Abe Feder はそのプロードウエイの公演の照明収入の他に建築照明、産業照明の相談及びファッションショウ照明を行い、舞台装置デザインもやる。Jean Rosenthal はプロードウエイの芝居・バレエ、New York City Centre のオペラシーズンその他の舞踊の照明の他に Theatre Production Service (劇場関係器材の補給売買相談) をやっている。Peggy Clark は、数人の舞台装置家の下で照明家として活躍すると同時に、アシスタントや独立した舞台装置家としても有名である。

各シーズンのおおよそ一二パーセントのプロードウエイ公演が照明家の手になっている。照明家は、特定の舞台装置家やプロデューサー及びバレエ団などのグループと結びついて、その連続的公演の雇用を計っている賢明な人が多い。いざれにしても照明専門家に対する雇用は、段々に増加しているとはいえずまだその機会が少ないのが現状の様である。

電球光源の色温度

丸 茂 富 治 郎

天然色映画やカラーテレビに於て光源の色温度と言われる場合が多くなって来た。多くの金属に於てそれが加熱されたとき放出する輻射線は或温度に於ける黒体（完全放射体で入射したエネルギーを吸収して反射しない物体）の輻射線と発光色に於て相似する。

この時の黒体の温度を其金属の色温度と言う。

これ等の温度は絶対温度（°K）で表わされる。

絶対温度は熱力学上の温度単位で氷の融解する温度を273.15°Kとしたもので1°Kの間隔は摂氏1°Cと同じである。

即ち1000°C = 1273.15°Kである。

輻射高温計や光学高温計で測定する温度は其物体の黒体温度すなわちその物体の出している輻射と等しい輻射を出すと仮想する黒体の温度に引直して表わす。それ故石炭等灰色体と言われるもの以外の金属では測定温度は実際温度より低く表われる。

タングステンの温度と色温度の関係は

次表の如くで又タングステンフィラメントの電球の製り得られる最高温度は3350°Kとされている。

タングステンの温度と色温度の関係

温度 (°K)	色温度 (°K)
2000	2033
2500	2557
3000	3093
3100	3202
3200	3311
3300	3420
3400	3531
3635(融点)	3822

電球に於ては各部に吸収される熱損失により電球の全輻射はタングステンフィラメント自体の全輻射より小さい事は明らかである。

斯くの如く色温度はフィラメントの温度と直接関係する故電球の寿命と大きな関係を持つものである。

例えば100V50Wの二重コイル電球の電圧に対する特性は次表の如くで電圧を下げれば色温度は下り寿命は長くなる。

反対に電圧を上げれば色温度は高くなる

各種電球の色温と寿命

型 式	フィラメント	初光束 Lm	寿命 H	色温度 (°K)
100V 60W A-60	CC-6	835	1000	2770
100V 100W A-67	CC-6	1630	750	2860
100V 200W A-79	CC-6	3700	750	2895
100V 300W PS-110	C-9	5650	1000	2935
100V 500W PS-127	C-9	9900	1000	2945
100V 1000W PS-165	C-7A	21500	1000	2995
100V 500W T-64	C-13	11000	200	3000
100V 500W T-64	C-13	13500	35	3200
100V 500W T-64	C-13	16000	8	3350
100V 1000W G-127	C-13	23000	200	3000
100V 1000W G-127	C-13	28000	35~50	3200
100V 2000W G-150	C-13	51500	200	3100
100V 2000W G-150	C-13	58000	100	3200
100V 2000W G-150	C-13	64800	25	3350
100V 5000W G-200	C-13	141000	150	3200
100V 5000W T-200	C-13	165000	75	3350
100V 10000W G-300	C-13	330000	75	3350

が寿命は極端に低下するものである。

100V, 60W CC-6電球の特性

電圧	色温度(°K)	効率 Lm/W	寿命(時間)
70	2400	5.03	—
80	2540	7.22	33400
90	2660	4.60	4700
100	2780	12.20	1000
110	2890	14.90	230
120	3000	17.65	74
130	3090	20.35	28

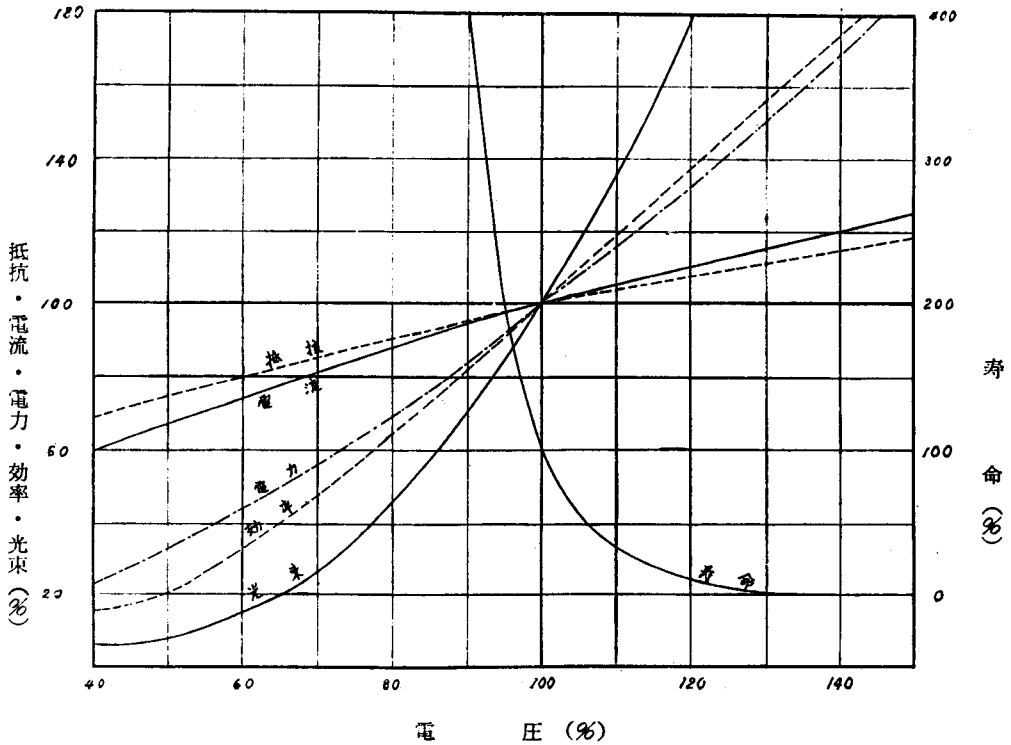
従って低出力の電球は色温度は低く高出力の電球は色温度が高い。色温度3000°K以上のものは100V仕様で500W以上のものでないと寿命が短かくて実用にならない。

スタジオに於て使用される各種の電球の公称されている寿命と色温とを表示する。(前頁参照)

色温度の低い光源器具に対してはゼラチン又は樹脂性の淡青色フィルターを用い灯数を増す方法が取られている。

電球以外の光源に就ては白色蛍光灯は4500°K、昼光色蛍光灯は6500°K、クセノン弧光灯は約6000°K、炭素電極アークは2900°K、6500°Kである。

尚曲線図はフィラメント電球の特性を示したものである。



設計 製作 施工 販売
配電盤 調光器 照明器具
舞台照明設備

丸 茂 電 機 株 式 会 社

千代田区神田須田町1-24
TEL (251) 0321・2767・6981

日比谷公会堂

舞台監視用テレビジョン (ITV) に就いて

阿部吉之助

昨年十一月、二年程前より計画議案に

事務室、職員詰所、楽屋、照明室等直接舞台が見えない処で、容易に舞台監視が出来する事項として提出していた事が実施された。以下は仕様書より一部、写載し、終りに實際上よりの結論を述べる事とする。

「本設備は公会堂内舞台及び客席の監視を行う装置であつて、ビデオン撮像機は客席二階下手側スポット室前に設置し(舞台全面並びに客席の見える位置)モニター音回路のマイクは舞台センター、フットライトの位置に据付けて夫々有線に依つて公会堂ミキサー室に於いて受信操作出来る装置とするものとす。

ミキサー室には音声増幅器及びコントロールユニット(制御盤)、モニターユニット等を設置して自由に選択して撮像し有線により各室の受信機に受信出来る様施行するものとす。

装置細目

会社名 日本ビクター C C T V 三型
ビデオン撮像装置

電気的特性

- イ、走査線数 五二五本
- ロ、毎秒像数 三〇枚
- ハ、走査方法 一本飛越走査 (電源非同期)

- ニ、映像周波数帯域 六メガサイクル

- ホ、水平解像度 約四〇〇本

- ヘ、撮像管 ビデオン

- ト、最小所要照度 二〇〇ルクス

- チ、出力信号 高周波出力信号 〇・一ボルト (七五オームインピーダンス)

- 標準放送方法

- 高周波受信周波数 チャンネル 一十二のうちの、一つにセットする。

- リ、映像出力信号 一ボルト尖頭値 (七五オーム)

同期信号負極性

- 使用レンズ(規格品) F二五 f:一・四Cマウント F一五 f:一・九Cマウント ユニツト構成

- イ、カメラユニツト

- 一、レンズは十六耗用Cマウントの規格レンズが取付可能である。

- 二、そのレンズによつて舞台上のキツカケ等を監視出来るものであること。

- 三、アイリスを具備したものであること。

- 四、レンズ焦点調節及アイリス(絞り調節)は遠隔制御出来る装置を施されたること。

- ロ、カメラユニツト設置(カメラ首振り装置)一台

- カメラの向きを上下左右に廻転角度を保持変更するものとし、操作がコントロールユニツト制御パネル上に於て遠隔操作により行えるものとす

- ハ、モニターユニツト

- 一、十四吋受像管(十四RP四一A 磁界偏向電界集束型)を用いたるもの。

- 二、コントラスト、ブライトネス、フォーカス、ビーム、ターゲット等の調整はコントロールユニツトで遠隔制御出来るものとす。

- ニ、コントロールユニツト

- 一、カメラレンズの焦点調節はアイリス(絞り調節)のカメラの首振り円滑に調整出来るものとする

- 二、モニターユニツトのコントラスト、ブライトネス、フォーカス、ビーム、ターゲットの調節は容易に遠隔制御出来るものとする

- 三、電源及同期信号発生ユニツトその他夫々のユニツトは総て遠隔制御装置を備えるものとする。

- 電源及同期信号発生ユニツト

- 各ユニツトに供給する電源及び同期信号発生装置等の制御はリモート・コントロールユニツトに於て遠隔制御が行えるものとする。

- 注意事項

- イ、カメラの前置増幅器にはカスコード増幅器を使用し雑音等の減少を計る。

- ロ、電源は真空管増幅による安定化

電源を採用すること。

ハ、ビデコン保護回路を装置し万一の場合に備えてビデコンの損傷を防止するため、その装置を施すものとする。

ニ、カメラレンズ焦点調節等その他の総て制御はコントロールユニットのパネル面で行なえるものであること。

増設モニター受像機

イ、本機はミキサー室モニターユニットより各室に増設配置を行うもの。

ロ、使用機は十四RP四A磁界偏向電界集束型受像管にして一般受像機と同様な型体構造を有するものとする。

ハ、受像管表面は塵埃が附着しない様外部より完全に保護遮断を行うものとする。

ニ、規格

一、映像部入力 ハイ・インピーダンス

二、入力信号 一・四ボルト(VS)一五〇%

三、利得 三十七デシベル

四、周波数特性 五メガサイクル迄十一デシベルト、五メガサイクル以上

五、位相特性 六十サイクル/毎秒矩形波によるサグ五%以下とする。

六、信号対雑音比 ハム雑音五十デシベルト以上

その他雑音四十分以上とする。

七、利得調整 〇〜十デシベルト連続可変

ホ、偏向部

一、偏向振巾 螢光面寸法以上

二、解像度 五〇〇本以上とする

三、偏向歪 水平垂直共六%以下

ハ、電源部 一次入力電圧 交流一〇〇〜一一七ボルト

以上で尚音声回路は省略す。

総計約三百五十万円の費用が計上された。今使用して居るレンズは、F十五耗の広角で場所は下手投光室前に設置されて居るので、下手奥の出入がアウトアン

グルで(カメラをセンターに設置するともっと広角となり、映像が小さくなり鮮明度が落ちる)又コントロールをミキサー室で操作するので、必要な事項を電話

連絡で行うので手達は生じるが、この様な事をのぞけば操作は一段と楽になり、キツカケが直接見て行えるし、又キツカケとりが用意の掛声をかけて、キツカケ

に丸茂製TH-Kをサスとして吊り込んで四〇ボルト位より映像が出るので、暗中模索でやって居た事が確認しながら操作

ち又ドン帳前で行われる事が判り、フロント関係の操作も楽になった。怒を云えば、鮮明度が増して、それにともない明暗の点が判る様になると一段と操作上に便利となると思う。又ズーム的になると

もっと威力が発揮出来ると確信する。だが此の設備で一番仕事が出来たのは調光室である。後日色々と実験的な事を思い、データーを取り発表をしたいと思

一つの眼と無数の眼

NHK-TV 土村 晶

舞台照明に於いて眼は一つ、即ち観客席の方向のみと想定し照明設計を考へ得るので、その方向より見て、美しく、又

は現実的立体的に見える様、そして観客の眼より舞台迄の距離に依るアダプテーションを計算に入れて、加色混合に依って出来るニュアンスを推定し照明設計が出来る。それに比べて、TV照明は、TV

Vカメラが媒体と成って観客に見せるので、TVカメラのレンズが観客の目の位置となるので、演技者を五〇釐の近さから眺めたり、又は五米はなれて見たり、

前から後から横から斜め上斜め下からと演技者のあらゆる方向、あらゆる距離のロングショット、アップショット、ビッグ

クローズアップショット等の位置に目が存在するものと考えられる。その上其れ等のショットは映画撮影の場合のワンカット写りと異なり、連続的に移行するので、理想としては、それ等のいずれのシ

ョットをも満足せしむるライティングプランが作られなければならない。けれどもTVカメラを媒体として居るので、電

子の又は電氣的な特性が画質を左右すると例えば、撮像された画面の白い部分と黒い部分との比率に依って、その白又は黒の明度の再現が変って来る事やロング

ショットを満足させる照明はアップショットには荒すぎ、アップショットの照明はロングには向かないと云う。相反する

条件や、暗闇の場面に虚構の光をセットに当て映像信号が得られる様にする等の

対カメラのファクターを考慮に入れ、アップの時まつげの影の流れる方向の良否でその演技者の美しさの倍加を考え、陰影の使い方と云うか影の処理に、舞台照明では感じなかつた影と光の創作に、無数の眼を少しでも満足させる苦勞を続け

最近、アインシュタインの「光速不変の原則」すなわち「光の恒速性」を、実験によってくつがえした新理論が、発表されました。

一月六日付の東京新聞によると、実験者は、イタリアのトデスニーニ教授（ベガモにある物理学研究所）で、この実験結果は、各国の科学研究機関に報告されたそうです。

アインシュタインの理論は「光は常に一定の速度である」と云い周波数の増加は、波長の縮小によって説明して居ますが、ト教授が実験の結果くつがえしたのはこの理論のあとの部分で、すなわち「新理論は、ガリレオの古典的相対性の原理にもとづいて、光の速度は光が通過する媒体の速度と//復合//し、一定の波長を維持しながら周波数が増す事を確認するものである」と語って居ます。

この実験は、まず単色光線を水の入ったチューブに通過させる。水が静止して居る間は光の速度が変わらず、その産物である波長と周波数も同様であるけれどチューブの水を動かすと光の速度は変わり、周波数が増すが波長はいぜん変わらないし、単色光線の分光ラインは、それぞれに水が静止状態にあ

った場合と同じ距離を保ち、その波長が変わらない事を示して居る。
分光ラインを分光器の端の紫外色の

「光の恒速性」に 対する新理論

丸 山 久 郎

部分に、置き換えてもライン間の距離は変わらない。この事は、周波数の増加を示して居る。

この実験は、現代物理学の理論的基

盤に関係するもので、十九世紀に光の伝ばと速度について重要な研究をした、フランスの物理学者イポリト・ルイ・フィゾーと同じ様な、実験器具を使って行なわれたと云います。

この項の終りに、立教大学武谷三男教授の話として「これと同じ様な、実験はフランスのフィゾーと云う学者が百年前にやって居る。その時も、光の速度は違つて居たが、それは相対性原理で説明出来る。ト教授の実験がフィゾーのものより精密で、それ以上の詳しいデータが出たのであれば面白いと思うが、この説明では、光速の問題よりも、周波数と波長の関係を、より重要視して実験したようだ。」と付記されてあります。

私は、物理的な、詳しい理論は、まだ勉強不足ですが、光を操作する者として実際には関係のない事柄ですが、非常に面白い問題でしたのでここに取り上げました。

尚、機会を作つて、もう少し詳しく専門家にたずねてみようかとも思つて居ます。

各国、学者の反響は、まだ私にはわかりませんが、その結果の知れるのも近い内の事でしょう。

<次号予告とお願い>

次回十一号は、新劇、オペラ、バレエ等の演出家から照明に対する考え、希望又は各ジャンルの「舞台照明はかくあるべきと思う」と云う様な原稿を頂き、A演出家寄稿特集Vに致したいと思ひます。御期待下さい。

又、今回の十号には多くの問題を含んだ記事が多いと思ひますので、これに対する御意見など反響の頁を作りたいと思つて居ります。是非皆様の御意見をお寄せ下さい。

才十一号担当
篠木佐夫

社会保障の調査について

協会ニュース十二号で中間報告致しました協会の社会保障に関する調査の結果が出ましたので下記に表記致します。環境の相違によって、同じ照明の仕事をしていても、生活の条件が各種各様異っているのは当り前のことだとは思いますが、然し生活の条件、方法の違いはあっても人それぞれの不幸や不慮の災難に対処する方法は常に万全の方向を目指して、お互いに助け合い協力して向上したいものと考えます。

協会の現状はそんな面ではなはだ微力だとは思いますが、社会保障の全く貧しい我が国の現状の中で少しでも我々が安心して仕事ができる様、今後の福祉厚生委の活動の一つとしてこの調査をより完全にし、そしてより深い分析の上に我々の向上を計りたいと思っております。

才一回目は余り明細な調査が出来ませんでした。が、この中からでも色々と考えなくてはならない問題もある様です。

表を表のまゝで終らせることのない為、会員諸兄姉の御意見や御感想を頂いてより良い方策を考えたいと思っております。

福祉厚生委員会
大野記

舞台照明家協会 会員社会保障調査表

昭和36年3月末日現在に依る

会員数	社会健康保険	失業保険	火災保険	厚生年金	退職金制度	恩給(年金)	芸能人保険
松竹株式会社	4	有	有	有	有	—	—
東宝株式会社	4	有	有	有	有	—	—
明治座	14	有	有	有	有	—	—
日本テレビ放送網	15	有	有	有	有	—	—
フジテレビ	6	有	有	有	有	—	—
教育テレビ	4	有	有	有	有	—	—
日本放送協会	3	有	有	有	有	—	—
東京テレビ	2	有	有	有	有	—	—
東宝舞台株式会社	2	有	有	有	有	—	—
東京舞台照明株式会社	2	有	有	有	有	—	—
共立照明株式会社	9	—	—	—	—	—	—
スター照明株式会社	2	有	—	—	—	—	—
松崎照明研究所	9	有	—	—	—	—	—
小川照明研究所	9	—	—	—	—	—	—
穴沢照明研究所	7	—	—	—	—	—	—
大庭照明研究所	1	—	—	—	—	—	—
今井照明研究所	5	—	—	—	—	—	—
田中照明研究所	5	—	—	—	—	—	—
デパートホール堂	5	有	有	—	有	—	—
区公会堂	4	有	有	—	有	有	—
日比谷ホール	3	有	有	—	—	—	—
才一生命ホール	3	有	有	—	有	—	—
産経ホール	4	有	有	—	有	—	—
文芸座	4	—	—	—	—	—	有
静岡岡原公会堂	1	有	有	—	有	有	—
宇都宮市民館	1	有	有	—	有	有	—
A.S.G.ホール	7	—	—	—	—	—	—
フリスホール	19	—	—	—	—	—	—
福島公会堂	1	有	有	—	有	有	—
草月ホール	1	—	—	—	—	—	—
北九州プロ	7	—	—	—	—	—	—

私の履歴書

松浦光次郎

職歴

一、昭和八年十月十日

東京都千代田区有楽町一の十二

東宝株式会社東京宝塚劇場

電気係入社

現在に至る

これが私の履歴書でありまして、諸先生、先輩各位の皆様の如く経歴もなければ亦経験ありません。よく人様が井戸の中の蛙だと申されます通り東京宝塚劇場と言う限られた舞台以外何も知らぬ駈出しであります。御承知の方も御ありかと存じますが東京宝塚劇場に於ける私達の仕事を分類致しますと変電室を含む一般電気設備、電気機械関係、即ち機械化された舞台設備大道具吊上用捲上機、廻り舞台迫り上げから防火シャッター各種エレベーター、送風機及ポンプ類のモーター関係等建築に附随する綜々の電気及機械の保守の任に当り、開演と同時に舞台照明の操作、音響効果、マイク関係の取扱から映写機の操作までがたいです。

舞台に於きまして毎日楽しく仕事をし行く上に照明或は効果プランに基き初日より千秋楽まで如何に正確に操作してお客様に観て戴くか私達の生命と心得えて、オペレーターに徹してまいりました。入社以来、身につけた個性も特長もなく、申上げる話題すら持合せなき誠に恥かしい身の上です。取り留めなく思いのまゝを書き綴って見ます。

毎日毎夜甘党の店をたずねて銀座をうろついた昭和十年頃、若松梅園等でパイのぜんざいで終電までねばった頃、今はなきル・プランタンの喫茶部一なつかしい道でした。

十三年九月第一補充兵で応召、泣く子も黙ると唄われた添田部隊に編入され中支那方面にまいり十六年四月満期除隊致しました。まもなく第二次大戦、心暖まる暇もなく応召、三回目現在東京放送用地の赤坂の電波部隊に入隊したのが十八年八月でした。ブラウン管を見詰ながら福島県海岸通りの山の中で終戦を迎

えた。やるせないよりどころのない気持で故里の山野を徘徊くらす幾日、九月五日と記憶してありますがゲキ場サイカイスグ上京セラレクシの電報、感激今尚わすれられません。

皆様に最も喜ばれ連日満員のお客様をおむかえした劇場も十二月末、進駐米第八軍に従業員諸共接収され御存知アニールセヤーターが始まります。

伊藤道郎、喜朔両先生御指導による舞台公演も暫く続きました。其の後電気係は、舞台照明、映写、電話、建物維持、一般電気各関係にわかれ、私は神田・島津ビルに本部を置くR&U指揮下の一般電気保守関係に入りました。約二十五名の電気係員も日本と習慣の違う軍律が苦しい日日だった様に思われ毎月必ずくる命令書それは人員整理でした。二人やめ五人やめ最後に同僚芹沢氏と二人になってしまいました。自分の意志でなく退社する方を送る会、今でもぞっとします。

次は私と心に決めていました処、幸に三

◀ 賛助会員 ▶

松村電機製作所

文京区根津宮永町22
電話 (821) 6 1 6 1

◀ 賛助会員 ▶

丸茂電機株式会社

千代田区神田須田町1ノ24
電話 (251) 0321・2767・6981

十年二月東宝に返還されました。

近代設備に改装、四月宝塚歌劇によりこけらおとし、再開場致しました。之の改装に当り、私の入社当時の先輩各位が現職で御指導賜り皆様に甘えて二十数年前の夢をもう一度子供に選った様なよろこびでした。二十数年経過後尚恩師と仰ぐ先輩各位の御指導を得て仕事が出来た事、私だけにさずかった幸と喜びに思っています。参考までに東京宝塚劇場開場時の電気関係は左記の方々です。

総指揮 井上正雄氏 舞台照明関係
中本猛雄氏 動力関係 勝馬益三郎氏
一般電気関係 剣持善吉氏

あれから六年、井上氏は江東楽天地の重役殿、中本氏は新宿コマ劇場舞台課長殿、勝馬氏は日劇副支配人、剣持氏は管材部課長殿にそれぞれ御栄転なされました。今後も私は東京宝塚劇場と共にあり度く念じております。

先輩各位の語られたつれづれ思いのまま舞台照明に関して書そえて見ます。大正十二年関東大震災直後演劇の復興につれ急速な進歩とは申せ、ボーダー・フットライトは最高六〇ワットBランプがゼラチンニスで染められ、其の器具に至ってはブリキ雨樋を加工して使われ、スポット電球一キロワット（現在の一〇キロワット位の大きさ）其の当時のお金にして三十五円位だったと受け賜りました。調光器も水抵抗から金属抵抗へ昭和七年

宝塚大劇場で井上氏の研究と丸茂電機の試作により現在の調光変圧器の基礎が完成、昭和九年東京宝塚劇場に初めて設備調光器の一大革命となり之に伴う電磁スイッチの発達が遠方操作方式の採用となつたものだそうです。

昭和十年東芝に於て発表されたサイラトロン調光器も完成し実用の段階に入り電球の発達に伴い照明器具も除々に改良丸茂TH型が最も普及したのもこの頃です。外国の模倣時代を脱し、各器具も能率本位に設計が切替られ、フレネルレンズ使用の各種スポット、ガラス広角反射鏡使用ユニバーライトが舞台照明に使われだしたのもこの頃です。不幸にして国情が急変諸種の産業が戦時生産に切り替られ、舞台照明の発達はストップ致しました。しかし先輩各位の現状打破の意欲は日夜続きました。

遠山静雄先生の肝煎でゼラチンペーパーの色調統一、東芝大型電球の枯化防止装置等々です。第二次大戦の勃発は演劇の発達をまったく停止させ、昭和二十年の終戦で各照明器具メーカーの再発足、昭和二十四年頃再び発展への道を歩み始めました。竜電社のバイポット電球の試作とフレネルレンズの大型化の完成により現在のFMスポット時代を呼び調光器式に於ては初期の四分の一の小型化に成功しています。遠方操作方式も益々多種多様、調光デンマーの正逆運転自在はす

でに完成品と見なして良いのではないのでしょうか。アークスポット、昭和十年頃夢と考えられていましたピンアークスポットにあと一息です。螢光ランプの発達は一般家庭電灯に照度の上昇をもたらした舞台照明のベースライトは一般大衆の目が二〇〇と五〇〇ルクスでは承知出来ず、二〇〇〇と五〇〇〇ルクスを要求してまいりました。

高能率の照明器具の採用にもかゝらず其の設備電力は一座席五〇W位より一五〇W目安に増加しつつあります。此の様にも多種多様に複雑化した現今の照明設備も私達の心がけと日日の保守如何によって当初の効率と能力を十分に発揮出来なくなります。演劇は今や映画・テレビ攻勢にたちむかわねばなりません。日常の保守に心血をそそぎ経済を重じ経費の節約に務め設備の改善を計り、私の勤務して居ります東京宝塚劇場を商業演劇の中心として今世紀の後半も発展繁栄させねばなりません。

今後共協会員各位の御指導御便賜り度く御願ひ申し上げます。



◀ 賛助会員 ▶

株式会社 日進電機製作所

新宿区戸塚町3ノ74
電話 (361) 0206・(368) 2402

◀ 賛助会員 ▶

近藤電気工業株式会社

世田谷区経堂1ノ134
電話 (421) 2096・9619

フリーの人達の問題について

小川昇

我々の協会には、大別して二つの異なる条件のもとに働いている会員がある。

即ち劇場に所属している人とフリーで働いている人である。この異った条件のもとで働いている人達を、常に同じものとして考えなければならぬことが協会の運営の一つの悩みであると思う。そこで或る場合には、その一方には比較的關係の少い事でも、他の一方にとって非常に重要である問題については、皆で一方の事を考えることも必要ではないだろうか。

大正の末期頃、私などがこの途に入ってきた頃は、舞台照明の仕事に従事している人といえ、そのほとんどが劇場で働いている人で、今の所謂フリーのような立場の人はほとんど無かったように思う。仕事をやる機会も少かったし、舞台照明という職業も未だ一般には知られていなかった。従って、舞台照明の仕事をする為には劇場に就職するより他に途がなかったのである。

ところが現在では、我々の協会の会員だけでもその半数に近い人達が一定の劇

場（ホール等も含めて）に就職せずに舞台照明の仕事をしているのである。此の人達の中には一つの団体に所属して、劇場に就職したと同様の条件で働いている人もあるであろうが職場は必ずしも一定してはいない。即ちフリーに属する人達と思つていゝであらう。そこで、ここではフリーの会員の立場から二三の問題を考へてみたいと思う。

先ず第一に、我々が舞台照明家になる為には舞台照明の技術を身につけなければならぬことは云うまでもない。

劇場に就職する場合は、たとえ素人であっても先輩に指導され給料を貰いながら仕事を覚えることが出来るが、フリーの場合はどうしたらよいだろうか。或る程度仕事を覚えるまで見習いの為は無給で働くことの出来る人はそれも一つの方法かも知れないが、実際には双方に種々の問題があると思う。才一只有かせてもらうだけではたして勉強が出来、且つ仕事を覚えられるかどうが疑問である。ことに最近のようにすべての公演に準備の

時間が少くなつては現場で教えたり教わつたりする余裕はほとんどないと思うが、元来舞台照明の仕事の一つ一つを切りはなして単独に考へてみると、どれもそれ程取り付きにくい仕事ではないから只何となくうろろしている間に自分で仕事を覚えような気になつて、こんな仕事なら苦勞しなくても誰にでも出来るものだと安易に考へがちになるものである。

しかし、どんな仕事にも或る程度の基礎というものが必要である。勿論舞台照明のような仕事は実際に現場の数を多く経験するのが大切であるけれども、現場にぶつかると基礎を身につけることはもつと大切なことである。何もわからずに現場に飛び込み、正しい指導をしてくれない人もなく、若し間違つたことを身につけたまゝ一人前になつたつもりで世の中に出たら、当人の将来ばかりでなく舞台照明の前途にも大きなマイナスになると思う。そこで、これから舞台照明の前途に進む人達がかたがたで現場に飛び込んで行かなくてもよいように、現場の仕事を

正しく身に付けることが出来る程度の基礎を作る為の施設があつたらと思うのだが。小規模でもいゝから或る程度の実習が出来ような照明設備を持ったもので、新しい試みの照明や、新しい人達の勉強に役立つもの、そんなものを作りたいと思う。

次に、フリーの人達の生活の問題がある。即ち仕事に対する報酬の問題である。これは大へん難しい問題だが最も重要な問題だと思ふ。そこで仮にデザイナーの問題と現場で働く人の報酬の問題とに分けて考へて見たいと思ふ。

デザイナーについては、その額の適否は別としても現に一部では確立されているものであるからそれを全面的に実施するように働きかけるべきである。デザイナー料が曖昧になつている原因の一つは照明家自身にもあると思ふ。照明設備もオペレーターもすべて完備している劇場でデザイナーを依頼された場合は比較的簡単な問題だけれど、デザイナーを依頼された者が照明設備もオペレーターも其他の消耗材料も全部面道を見るような場合に種々な問題があると思ふ。しかし此の場合でもデザイナー料というものが確立されていれば比較的簡単に処理出来ると思ふ。照明デザイナー料は、脚本、演出、装置料などと同様に考へて、其他の消費費と區別して取扱うようにすべきものだと思ふので依頼者に説明すれば解つてもらえる

◀ 新 入 会 ▶

35年11月 ~ 36年 6月10日現在

青木 繁夫 杉並区東田町 2 の 188
 磯貝 充宏 台東区浅草石浜町 3 の 4
 黒松 東郎 大田区調布大塚 649 長村方
 小林 房則 大宮市日進町 1 の 292
 神原 秋男 都下南多摩郡日野町豊田多摩団地 98の4
 佐々木 順子 品川区小山 5 の 38 吉田方
 鈴木 利一 吉原市和田町2の 45 の 1
 関口 信夫 福島市本内北下釜 1 の 1 市住宅 5 号
 滝 博夫 渋谷区本町 2 の 27 市川方
 田中 輝二 杉並区高円寺 6 の 741 桃山荘
 根本 清 横浜市中区山手 151
 藤代 敏久 中央区月島西仲通 4 の 4
 古谷 誠一 杉並区馬橋 4 の 495 横尾荘
 別府 正雄 品川区西中延 4 の 1286 静和荘
 前島 幹彦 世田谷区上馬町 3 の 968 双葉荘
 松井 啓啓 荒川区三河島 3 の 2894
 松本 主税 世田谷区代田 1 の 393
 松野 武馬 横浜市神奈川区西神奈川 1 の 3
 山崎 教雄 中野区野方町 1 の 739
 大沼 秀雄 文京区真砂町 38
 加藤 一夫 新宿区市ヶ谷谷台町 1 平和荘内
 五島 隆成 杉並区荻窪 3 の 26 小林方
 佐藤 利夫 都下調布市深大寺 2293
 杉塚 崎嘉 江戸川区小岩町 3 の 1659
 晴山 実治 品川区西品川 5 の 967
 松川 直弘 世田谷区弦巻町 3 の 9
 山口 功 豊島区巢鴨 7 の 1283
 練馬区南町 5 の 7162

東京文化会館
 共立講堂
 松崎照研
 才一生命ホール
 中野公会堂
 東京照明館
 吉原市民会館
 福島公会堂
 日比谷サービス
 共立公堂
 " "
 明治座
 厚生年金会館
 " "
 東京照明
 " "
 共立講堂
 東京照明
 共立照明
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "

退 会

赤尾 義雄 口比谷サービス
 桑田 秀雄 A S G
 春原 悟 " "
 仲佐 慶一 フジテレビ
 中島 政良 大庭照研

死亡退会

神保 道臣 名誉会員
 田村 誠一 日 劇

ことだと思ふ。現場で働く人の報酬について、各自の能力に応じた報酬が正当に支払われているかどうかということだと思ふが、この人達の中にも、その置かれている条件に二通りあると思ふ。一つは会社或は団体に所属して、其処から

一定の給料を支給されている人達で、此の人達は一応は各自の能力や仕事の量に応じて規定された報酬を受けているものと考えていふだろう。しかし個人で働いている人達については、現在の状態では各自の能力を査定することも報酬の額を

規定することも出来ない問題があるのではないだろうか。いづれにしても個人の生活に関する問題であるから当事者が自発的に問題の解決に乗り出さなければならぬことだと思ふ。しかし非常に難しい問題であるから一人や二人で出来るこ

とではない。こんな時にこそ協会の力が必要なのではないか。みんなて解決の方法を考えれば必ず何かの方法が見つかる筈である。若しそんな問題を持っていてる会員が居られるならどしどし提出して

△私論▽

舞台照明と舞台照明家

大野洋

まえがき

歴史的にも浅く、数の上からも少ない云わば特殊な仕事をしている、特殊な職業人とも云える我々舞台照明家には、他の一般的な職業人のみならず同じ仕事の場に在る舞台人にさえ理解され難い様々な特異性や、それ故の悩みや難しさがあ

る。その悩みや難しさが即舞台照明家の総べてに等しく普遍的なものかどうかは即断出来ないが、何人かの人達と話し合ってみると、多少の差異や感じ方の相違はあっても、ともかく似たもの同志の共通な悩みや難しさの多いことは事実のよ

うである。それらを大きく集約すると次の二つに大別される様に思う。

一つは、我々の職業形態的不明瞭さから生じる社会・生活的問題であり、一つは舞台創造上又は舞台進行上の照明部門の占める位置・価値の複雑さ不明瞭さから生じる技術性と芸術性からなる諸問題である。

私の仕事である舞台照明の芸術性と技術性と、私の職業である舞台照明家の職業形態と、この二つの支点から我々の仕事と職業の意義を考えてみたいと思う。

その一 舞台照明の芸術性と技術性

一、発 生

発生と云うといかにも大袈裟だが、こゝで不勉強な私がひらき直って舞台照明の発生の歴史を論じられるとは思ってないし、またその積りもない。何故なら舞

台・照・明の目的とするものの歴史は、そのまゝ舞台芸術の歴史であり、その技術も精神も広く舞台芸術全体の括がりの中に深く木の根の如く没入し、そしてその在

り様こそが舞台照明の血であり、肉であって、だから舞台照明の歴史は部分的な技術や器具の発達の表面だけからは決して判断出来るものではないと思うからである。

日本の舞台で△照明▽と云う言葉が初めて使われたのは、それまで照明を△配光▽と呼んでいた築地小劇場の昭和二年二月公演の「マクベス」の時であるようである。この築地小劇場の創立（大正十三年六月十三日）以前の舞台照明の仕事は殆んど大道具の手に依って為されたものが多い様だから、日本に於ける近代舞台照明の発端は先づ築地小劇場であると云って良いだろう。

同じくこの年の十月廿四日には帝劇が開場し、又明るく大正十四年正月に新築開場した歌舞伎座のスタッフの名の中に「幕内顧問兼電気照明顧問松居松翁」とあるから、どうやら関東大震災後の建築になる劇場に於て初めて舞台照明と云う部門の確立の基礎が出来た様に思われる。然し、一方十六世紀から十七世紀にかけての頃から既に色彩照明や写実的な照

明に対する人々の研究や成果があり、十九世紀の始め頃には調光器や配電盤と同様の機能をガス・ライトに依って実用化しており、先人達の舞台形象上の努力の歴史は古く、その意欲は今に劣らず強かつたと云えるだろう。日本に於いても多分同様の歴史が何処かにあるのではないかと思われるのだが、不幸にして私は未だ我國の舞台の歴史の中でそんな面からの先人達の息吹きを知らない。

瞬間芸術の名の所以か、舞台上に消える老大なエネルギーやその成果の歴史から私の知ることが出来るのは大洋の中の一滴の雫の様なものではないのは本当に残念である。

そこで冒頭でも述べた様に、ひらき直った歴史の中からの舞台照明の話はこの際あきらめて、ごく身近かな自分の歩いて来た道の中から順を追って話を進めたいと思う。

終戦時、工業学校に在籍していた私は当然のことながらその戦時教育からの虚脱・放心そして反動から大変無目的

な状態におかれてしまった。科学技術庁の長官が文部大臣をつかまえて「馬鹿野郎」呼ばわりをする程の科学時代の昨今では想像出来ない程、理科系の夢や理想は空しく焼野原に放り出された時代である。

機械設計志望の私が急転学校の図書室に入りびたつて、数少ない文学書を読み漁り、音楽や美術に急速に心魅かれていったのも、当時の同窓生の中でその後私同様理科系の道から外れ、やがて様々なやくざ商売?に発展していった者の多いことからみても、そう例外的なケースではない様に思える。

菊地寛の一幕物を上演しようと数人の友達と演劇部を創設したのもそんな状態の中であり、それにあきたらず女学生三十数人を集めてオペレッタを上演したのもその頃である。

云ってみれば、戦争が私の生活の中に生んだ副産物とも云えそうな当時のこの生甲斐は、幸か不幸かその後も急速にそして強力に私の生活全体にしぶとい根を掘り、遂に抜き差しならぬ芝居や道の足を踏み込んだわけである。

シュニツラーの「恋愛愛三味」にうつつをぬかし、森本薫を論じ、有楽座、帝劇、毎日ホール(旧)、読売ホール(旧)等つかれた様に通り歩き、一方では宝塚歌劇の華麗な道具に勝手気ままな夢を描き模範舞台を作り、遂には大八車に手製の

大道具を積んで仲間と共に子供の芝居を巡回する若気の極りまでゆくにはさしたる時間はかゝらなかつた。

当時、昭和廿三年の仲間達で作ったガリ版刷りのラ・ポールと称するパンフレットからふざけた記録をみつめてみたらその頃の一端を思い起すのに都合がよいので抜き書きさせて頂く。題して「アンファン・テリブル・スポット飛び歩記」

【購入契約 六月末(芝田村町光元社) 入手 九月九日

九月一〇日 家政学院講堂にて華々しくデヴィュー、十一・十二両日才一回夢の劇場に大活躍、其の後市橋君につられて放浪の旅にの任り、数日にして帰る十月廿四日、十三高校に出張、フィラメント切断症にかゝり、役目はたさず。一週間ほど青木君宅(現在上野・東京都文芸会館ホール)にて静養、恢復と同時に都高劇研コンクール才六地区会場東洋英和講堂に出かけ、母校の危っかしい照明係にこきつかわる。(中略)十一月十五日・十六日才二回夢の劇場一荏原公演に参加。大いに張り切らんとすれど、悲しい哉、停電。廿六日、毎日ホール進出。(中略)なお今迄電球がなく使用の度に借りていたが、今後は電球も整備され、更に活動の可能が多くなった。しかしロード等はない。」ETC・ETC……

パレーが上演されても完全なスコアはなく、たった一台のべんとうばこすと思

う様になつたその頃、それでも十何景かのミュージカル・ドラマを上演し、子供達の拍手喝采を受けて感激していたのだから、今思えば冷汗ものである。

一方、当時の世の中と云えば、まともな職業ですら生きることの難しかった時代である。芝居だの舞台だのと云うことは云わば救い難い道楽でしかなかつた。私の母なども随分となげいていたものである。だから勿論仲間の芝居として自分達のわずかばかりの金を持ち寄り、借金の上につかたりしてやっと続けられた舞台なのである。

その様な何時でも背水の陣的な追い詰められた生活の中の舞台であつた故か例えそれがどんな仕事であつても唯がむしやらにそれを自分の仕事とし、わずかばかりの充実感を追いかけたものである。どうも話が身の上話めいて恐縮だが、そんな中から私は生まれた。

前にも述べた様に、べんとうばこ一台がまゝにならなかつたその頃であり、まして我々若い連中が携へることの出来る舞台での仕事といえは凡そ芸術性などとは縁遠いものであつたに違いない。然し、当時身につけたがむしやらな充実への意志だけは、その後の私に大きくプラスするものがあつたのではないかと、今でも私は思っている。

その中の一つに技術的な問題がある。初期の夢ばかり追いかけた時代の私が

やがて少しづつ現実的な舞台の仕事に足をつけることが出来、それが照明と云う仕事に限定されて来た頃、そこで最も大きく眼の前に立ちちはだかつたのが技術的な様々の裏付けである。

自分の持つスポットが折角の舞台をぶち壊す情けなさも味わつた。スポットのシャッター一つ開け閉めするにも配電盤操作以上に神経をつかうことも知つた。

がむしやらな自分の為の充実感の追求が、現実の必要と云う裏付けを得たわけである。技術の未熟故に随分つらいこともあつたが、然しその反面、一つ一つそれらを克服してゆく現実の仕事の中で、自分自身にとつても貴重な誇りを持つと云う大きな喜びを知ることも出来た。

そして十余年、今も私がこうしてどうか仕事が出来たのも、その当時のわずかばかりの充実感を追いかけることから出発した技術的ないくらかの経験のお蔭とすれば、この頃は私にとって貴重な時期であつたわけである。

先日、同じ照明家のI氏とS氏と三人で話し合つたのだが、その時に出た話の中で、お互いにオペレーターとしての現在との心理的な違いと云う様な話になり、私の場合にはさきにも述べた私自身の過去から考えて、その舞台創造的な意味に於いて現在・過去の心理的な差異はないと

述べたのだが、S氏は技術と云う言葉の意味をどちらかと云えばメカニズム(MECHANISM)の中での意味としてとらえ、オペレーターの技術をテクニク(TECHNIC・TECHNIQUE=ART)と云うよりエンジンリアリング(ENGINEERING)と解釈されておられる様に思われる論旨であり、私と異った意見・結論であった様に覚えている。然し私にとり、舞台照明の中にある技術性の問題は、

二、成り立ち

N氏が云った。
・照明プランナーとは芸術家でなんかない。ひき出しだよ。と……。

一見鋭く真実的なものを衝き、手痛い批判の言葉ではあるが、私には未だそこまで結論するわけにはいかない。

ここで再び私の経験に話を戻させて頂く。科学は本来歴史的な結論の上に成り立ち、芸術は非歴史的な性格を持つ。と云った人があるが、歴史の蓄積の価値と創造との関係を私の成り立ちの中から述べてみたい。

現在に至る私が歩いて来た道は、時間的にはそんなに永くない間に非常に多くの舞台様式の歴史(経験)を私に与えて呉れた。安定した大劇場以外で変転と育って来た私が好むと好まざるとに依らず通らなくてはならなかった道の数少ない

あくまで舞台と云う場で何かを生む為の例え一切のメカニズムを除いても残らなくてはならない必要な事項であり、文字通り舞台上に不即不離の状態を続ける兄弟分以上に密接な関係でその根元に於て心理的には全く同一一点にその出発を持っていると思っている。云い換えれば、ほれた弱味で好きな舞台に接する自分の心にその区別が判然としない所から発生している私であるとも云えるだろう。

ち

利点の一つだと思っている。唯、余りにもめまぐるしく多くの舞台に追いかけられたのでそれが長時間であることに依って得られる経験の或るものは、大変不十分ではないかと思うのだが、然し、実感的に今云えることは、その経験から得ることが出来たのは、あくまでも技術的な問題であり、多くの経験が必ずしも私の心を豊かにしているとは云えない事実である。だから芸術性から云えば、たった一回しか演らなかつたものでも、私の心に消え難い感銘を残していったものもあれば、一ヶ月やっても何も残らなかつたものもあるわけである。

所が技術性から云うと、それらの何れの舞台も極めて明確な科学的な、論理的とも云い得る確実さが要求されていることは事実である。観客との相互関係を基

に考えれば、技術的にどうでも良い舞台と云うものはあり得ない。だから芸術的価値の発展がどこまで可能かと云うことは別として、技術的な多くの要求は理解し得る筈だし、又為さねばならない。

私の芸術的内容?の如何は、終局的に私の過去の経験に直接的に結びつけることは出来ないが、少なくとも創造全体の意味からこの技術的な過去の経験が私にとって有為であったとは云えると思うのである。

過去の経験がある瞬間には意地の悪い批判の声でしかなく、又ある瞬間には調光器のハンドルを動かす力強い助けにもなってくれた。私が始めてプランを立てた時の、あの初日の幕開き前の動悸と、幕が降りた時のオートハンドルの握ったまゝ味わった解放感とは忘れられないし、創造と技術と渾然一体となった喜びや結果としての幻滅の経験は今もなお統している。

私の成り立ちの中での技術と芸術との行方は少なくとも共通の線上にある様に思えるのだが……

三、具体的

舞台照明が不成功に終る場合、いくつかのケースが考えられるが、これを始めに二つの方向から考えてみよう。

◀ 賛 助 会 員 ▶

竜 電 社

港区芝新橋4ノ6
電話(431)7908・6259・6243

◀ 賛 助 会 員 ▶

電 照 社

渋谷区伊達町63
電話(441)6782・9042

一つは観客の眼に解り易い不成功である。この中には単なる操作上のミスと、演出意図的破綻の二つが含まれる。

もう一つは創造者側の内的状態に於ける不成功である。この中にも演出スタッフ間の意志の疎通を欠いた為の不成功と照明スタッフの間にある理由に依るものと二つの場合が考えられる。なおこの後者の中にはプランナーの技術的欠陥と操作者の技術的欠陥の二つが存在する。これをもう一度整理して書き並べてみると次の様になる。

一 操作上のミス

二 演出意図的失敗

三 演出スタッフと照明プランナーとの食い違い

四 照明プランナーの技術的失敗

五 操作者の技術的欠陥

以上の五つを考慮してみると、最終的に演出家の責任に帰する二と三を除いても独立的に照明部門の犯し得るケースが三つあるわけである。そしてこの三つは観客にとって同一視されるサマにならない結果を生み出す。そしてその原因はほとんど重点的に芸術性以外の所にあるように思える。技術性である。

我々の内部的欠陥に依る舞台の失敗は犯したくないものである。

先ず才一の操作上のミスは、こゝでは個人々々の真剣さに裏付けられた注意力によって防ぎ得るものと考えて良いと思

うので、次の才四、才五のケースを考えてみたい。

先ずプランナーと舞台照明の技術性と云うことから眺めてみよう。

プランナーの役目は、文字通り或る舞台の或る照明のプランを決定することにある。こゝで云う或る舞台とは、機構としての劇場の舞台と上演されるものの内容の両方の意味を併せ持った意味でありプランを決定することと云うのは観客の眼の前に具体的に提示出来る具象の最終決定の意味である。そして舞台照明の技術的側面とは、この或る舞台上で上演されるもの自体以外の総べての手段及び条件の要素であると思われる。

人が何かを表現しようとする時、どんな場合でもその条件とか手段とかは絶対に必要なものであり、これを無視して充分な表現が為し得るとは思えない。

だから或る舞台を赤くしたいと思うことと共に、赤くすることが照明プランナーの仕事であるのだから、こゝでオペレーターと共にプランナーも舞台照明の技術性と真正面から向い合わねばならないわけである。オペレーターの眼の前に実際の配電盤やスポットがあると同じ様にプランナーの眼の前にも絶えず舞台照明の技術的要素の一切がある。複雑なメカニズムのチューブに包まれた絵の具でありパレットである。これを忘れてはならない。

一方オペレーターは、その機能の〇〇〇の活用を要求される。そこでその〇〇〇の限度と云う問題も出てくるが、そこには必ずから規制出来る範囲と云うことが考えられるし、又これは純粹に技術上の問題とも考えられるのでこゝでは一応割愛させて頂いて、それを操作する人間的な問題に重点をおいて考えてみたい。

仮に、操作する人が舞台に関して素人であったと仮定してみよう。この場合のプランナーの役目は、不可能に近いことだとは思いますが先ずその内容の総べてを彼に理解して貰うことが先決であろう。若しその理解が不十分であった場合は恐らく多くの欠陥が現われる筈である。これはそれが例えスポット一台であろうと配電盤であろうと変りはない筈である。これに依っても才五の場合が起り得ると云うより非常に多いケースではないだろうか。だからこのオペレーターの技術とは単なるメカニズムの中のエンジンアリアリグではなく、上演されるもの、そしてつくられる照明に対する充分な理解が裏付けとして絶対に必要なことであると思えるだろう。

次に逆の場合を考えてみよう。操作する人が〇〇〇の技術を持っていても照明のメカニズムを全く知らない演出者が直接舞台のイメージをぶっつけてきた場合である。この場合の結果も殆んど無残

◀ 賛助会員 ▶

光研電気株式会社

品川区北品川4ノ560
電話 (441) 5070

◀ 賛助会員 ▶

バグナル株式会社

港区芝田村町3ノ7
電話 (591) 7651

な結末になることが想像出来る。そして前記した才四のケースと云うのは、これと同じ線上にあり得るとは考えられないだろうか。

そこで、技術と芸術との間にはさまってそれを進ませねばならないところに我々の宿命があるとは云えないだろうか。何時でも芸術的意味或いは結果の価値

今 後 の 問 題

私が一昨年八月オーストラリアに行った折の私のパスポートを見ると、渡航目的がプロヴァイド・テクニカル・サーヴィス(技術の提供——専門用語だと役務提供と云うそうだ)であり、職名がテクニシャン・オブ・ライティング・エフェクトであり、そして向うでのプログラムにはスタッフとしてのライティング・アドヴァイザーであった。

整理すると、豪洲のディレクターのライティング・アドヴァイザーとして、日本からその技術を提供する為に渡来した照明効果の技術者と云うのが私になるらしい。……何となく云い得て妙である。

こゝで私が気がついたことは、オーストラリアで私がした仕事は正しくライティング・アドヴァイザーであってライティング・プランナーではなかったことであつた。どちらかと云えば、前項で私がそうではないと云つた助言者であり空想者的に思える部分すらあつたと云えるだ

の要求される具体的成果を以て観客に接する舞台照明家は、単なる電気技術者でもないしディレクタントであつてもならない。だから助言者でも空想者でもそして職人でもない。芸術的かどうかは別としても、実行の創造者或いは舞台進行上の実行者だと思つた方がはつきりするのではないだろうか。

ろう。云い換えると、プランニングの最終責任は演出家に帰すると云う方式なのである。聞く所に依ると、或いは訪日する各種の外人の舞台をみると、どうも日本以外の因ではプランナーと云う者の存在が曖昧である様だ。舞台創造の方法が演出家重点主義に徹していると云えるのかも知れない。

当然のことながら、この演出家重点主義の方法に依つて舞台を創ることになれば照明を含めて全く総べての最終責任は演出家一本に絞られるわけであり、旨く行けば大変スマートであらうと思われる。然しその為には演出家の技術的造詣が極めて重要なポイントになることは云うまでもない。(——こゝで舞台にのる以前の段階での舞台装置デザインと舞台照明プランニングの問題を比較検討したいのだが、問題がやゝ別なものになると思ふので機会を新たに考えてみたい——)

然し、若し演出家とその技術的な諸要

素を十分に理解し、充実した内容を持たずれば、照明プランナーなるものは失業するわけである。……とは云うものの、未だ私自身現在の日本の舞台の創り方と外国流の演出家一人に重点的な比重のかゝる演出家万能的な方法と、そのいずれが良い結果を出すかの結論はつけ難い。総合芸術としての意味の握み方の問題にもなるのだろうか。

いずれにせよ独立的に具体性を持って現在の日本の舞台照明部門は、現在あるスタッフ分業システムをより高度に充実させて、△総合Vの意味が少なくとも一人の方能演出家の前に脆くも崩れ去る様な脆弱な内容にならない様努力しなくてはならないと思う。……(反面、現状での私の心の中では、その位の頼もしい演出家ももう少し居て欲しい様な気もするのだが……)

ともかく舞台照明の芸術性と技術性のその両極は、我々の総べてがその何れにも積極的であると同時に、その両方に等しく確実な理解と信念を必要とすると思われる。どちらかがゆるがせになった時即ち舞台照明家の意義は消え失せると思わねばなるまい。

技術性と芸術性の極間にこそ存在する舞台照明家の我々にとって、その毅然とした意識の確立とその方法の発展こそが今後の我々の重要な課題ではないだろうか。

◀ 賛 助 会 員 ▶

不二音響テレビジョン株式会社

港区芝南佐久間町1の51
電話 (501) 3161・9672

◀ 賛 助 会 員 ▶

村山舞台株式会社

文京区諏訪町4
電話 (921) 1546・0076

会員各位も御承知の様に、会報の編集は今回私が担当致す事になりましたが、如何にせん、この様に会報は遅延致し、又内容、体裁等も旧体同様で誠に申し訳ない次第です。

編集を毎回の担当を各号別に輪番制ではと云う提言をした一人である私としては充分に反省した後日機会が有りましたらこの経験を大いに生かしたいと思つて居ます。創刊当時の様に特定の担当者が良いか、又は輪番制が良いかは、各位の御意見を充分聞き、重要な将来の問題として大いに討論して戴きたいと存じます。

唯々この方法は、現在より以上の会報の内容の充実を計りたいと云う事でこの様に企画された事です。

さて会報の事になりますが、協会の会報は一部に付き百数十円にも経費のかゝるとの事です。

協会の貧弱なる経理内容から考えても各位の会費の大半が此の会報に費されるのです。

と云う事は、私はじめ皆様も協会の会員であるとして云う事のために、好むと好まざるに関らず、年に四回、各家庭なり又は職場に適當に配付される仕組になつて居ます。ですから私達は一年何回かの会報を購入して居る事になります。

と云つても、何にも会報を拒否するため此の様な事を云うのではなくより良き内容の会報が発刊される事を希望して居

るからです。

会員の一部分では、会費の大半が会報によって費されると云う事に関して、色々意見が有る様です。しかし如何に費用がかゝると云つても廃刊と云う事は考えられない事です。しかし会員各位の機関紙である以上、会費の数の限定が有りませんので、これ以上の発行部数は望まれません。勢い会報のコストが一部当り相当な額になります。現在の状態が続く限りはこのコストを要する事は出来ない事です。

廃刊する訳にもいかず、又単価もこれ

「編集を担当して」

沼田勝夫

以下にはならないとした場合は、結局はより以上の内容の充実を計る事しかないと思ひます。ですから皆様も大いに会報を利用し、各位の意見の交換なり生活又は照明技術の問題なり、其の他照明に関する問題を討議討論する唯一の場所はこの会報であり、会報こそは、希望、意見、又は不平（大いに結構）を発言する公共の広場と思ひ大いに活用して戴く事により会報をより以上のものに発展させて行きたいと思ひます。其の時こそは会費の総てを出費する事があるとも、会

員各位は何んの異議もない事と思ひます。

さて、此の度の編集の担当者として、全会員の「一人一言」ずつでも寄稿して戴き各位の日常の声を卒直に御聞きしたい、又其れだけでも充分立派な記事になるのでないかと期待して居ましたが、やはり時期早尚と申しますか、充分なる反響も有りませんので残念に思つて居ます。又々、才十号の会報を皆様が入手なされた後は、低調だ、愚劣であるとの声は有る事と思ひ、覚悟はして居ます。唯、云わして戴きたい事は全会員の総意によつ

したいのですが。

皆様御承知の様に福祉厚生委員会が発足致し、只今は会則、細則にわたり、委員の間で色々検討中でありますが、それはそれと致しまして、来るべき夏に、福祉厚生委員会としまして、何処か適当な所へ海の家でも開設致し、会員は勿論の事、其の他の関係者の方々も誘いの上参加して一夏を大いに楽しんで戴きたいと考えており、委員会の仕事としても大いに意義が有る事と存じます。

東京より二時間位の所で、皆様の間で適当な所でもあれば御連絡をお願い致します。連絡場所は、東京照明 原英一宛で結構と思ひます。

特に若い会員の方々が大いに利用して戴きよく遊びよく眠り、来るべき時期に備えて戴きたいと思ひます。

この様な集団生活の余暇の一刻にでもこれからの照明家を志す方々から、照明の利益と権利を如何にしてより護護すべきかを真剣に討論でもして戴ければこれにすぎる目的はないと思ひます。先ずは、御依頼迄。

いま一言、遅れ／＼になつたので次の担当の方も、さを予定が立たず、お困りの事と思ひます。不悪。

扱、話題は変わりますが、余白を利用致して一言、会員諸氏に御協力を御願ひ致



声

◆投書欄◆

個人的にお会いすると協会に対する色々の御意見を
お持ちの方が多いのですが、寄稿をお願いすると中
々思ふ様になりません。お互に書く事は照明プラ
ン以外不得下ですが投書は協会運営の重要な参考資
料です。奮って御意見をお寄せ下さい。

協会に望む

新しき年を又迎えました、今年こそ
会則「第二章目的と事業」を生かして下
さい。役員の皆様も大変、お忙しい体で
しょう。しかし、協会の仕事に従事して
いただいても、何んの意義があるでしょ
うか？僕は、会報の発行よりも、会則「
第二章」の意義を一日も早く、実現して
いたゞきたいと願っています。又池田内
閣の所得二倍論が問題となっている今日
此の頃、色々の物価も上り、フリーの人
々は、生活も大変になってきました。所
得二倍論には、関係のないのが、フリー

の人々ではないでしょうか。好きな道、
しかし、現実ほきびしく、生活上色々と
問題をなげています。

又、仕事の不安定その他色々ある問
題を考えて、出来れば、協会で人件費の
基本を作成して、会員のために従事して
いたゞき、各先生方の良き御指導をお願
いしたいと思います。

新年にあたり、協会に私個人の意見を
以上の様に論じたいと思います。

新 川 順 吉

幸なき勇氣

当協会の皆さん、こんな経験はないだ
ろうか？我自身は大いにあるので。例え

ば学生時代先生に「何か質問はないか」
——こんな場合皆黙々としてしていると、理

解出来たものと先生は思うに相違あるま
い。併し半信半疑の個所もある。その場
合問い正してみたい、が何となく自分一
人だけが？と恥しい気分が圧倒される。
知識と勇氣とは偉大なる仕事をつくる。

「この二つが人間を不問ならしめるもの
と思う。」(エマーソンのいった言葉)勇
氣のある人とならない人とは、同じ人間に
生を發した時の経過に比例して差が生じ
ると思う。それ等に又幸福も比例するの
ではないでしょうか。勇氣のある人が幸
福又無い人も幸福である場合もある。一
般に幸福になる。

義務程人が尊重しない義務はないとい
われる。永い人生には誰にもチャンスが
ある。機会を逃さぬことは人生の大切な
要素と思う。その要素は勇氣のあるかな
しかに左右される。幸福を所有するのは
有能な人間、されば有能な人間とは？そ
れは人類のためになる人のことをいい、
たとえば当協会の様な……又人類を幸
福に導く人間のことをいうと私は思いま
す。幸福に到達するのに最も必要なもの
が勇氣であるといえるでしょう。若し不

幸に見舞われても勇氣と誠実さえあれば
必ずはい出せるだろう。幸福なるものは
一体どんなものでどんな処に、存在して
いるのか？実はメーテルリンクの青い鳥
のように「幸福」は身近にあると思う。
悲嘆にも悔恨にさえもあり唯人が各自の
魂を立派なものと感ずることが何にも勝
る幸福の条件であり要素であると思う。

困難に際して人は不幸と感ずるだろう。
併し後でそのことを思い出す時「むしろ
あの様になれたのは自己以外になく、自
己にすら全くの同一条件で経験出来ぬ故
良く生き抜いた全く幸運な経験をしたも
のだ」と感謝の念すら湧くに相違あるま
い。ゆえに幸福と勇氣とは何等無関係と
も又大いに関係あるとも思う。

「人生」とは何か？辞書を引いたら「人
間がこの世に生きている間」「人間がこ
の世における生存」と辞書には書いてあ
るが、私の二十数年の人生をふり返って
見るとただ「寝て」「食べる」と言った
ような生活を毎日くり返して来たにすぎ
ない。私はここで第一の反省をした科学
の進歩と共に進む私達が今までと同じよ
うな生活を毎日くり返す目的で生きてい
るならば、せつかくこの世に人間として
認められていたのだからこれから先の照
明の事についても新しい知識と研究を皆
んなで築いて遠い苦楽の道を勇氣と誠実
心で愛そう。

飯 塚 勝 美 完

主催者と貸ホール

貸ホールに勤務する私たちは、主催者側に協力することは、もちろん重要なことであるが、主催者もまた、私たちの立場をもっと理解し協力してもらいたいものである。たとえば、のり込み、仕込み等の時間的な打合せは、電話一本、ハガキ一枚の連絡でもできることである。このような簡単なことが私たちにとっては最も重要なことなのである。連日の催物でしかも軽く少数の人数で最も効果を挙げようとしている。当事者側としても、もちろん理解のある見解を持っているがしかし連絡なしの、のり込み、仕込等には、いつでも手をやいている。しかも舞台上に直接携わる私たちにとってはなおさらのことである。そこで結局は主催者側と当事者側との間にいろいろな点で食い違いが生じ諸兄たちにまで不満を与える場合もできてくるのである。そこで、主

催者側である諸兄が舞台の重要性、ことに仕込み等の必然性ということを主催者に理解させる必要があるのではなからうか。当地には演劇鑑賞会なるものがあり隔月に各種の演劇を上演しているし、労音も毎月の例会をもっている。その他各種の踊りの発表会等々、最近はとくに特殊なあかりを必要としてきたことは諸兄の周知するところであるが、これ等の主催者があかり等の仕込みに要する時間的観念の無知であることもまた周知の通りである。したがって要は直接主催者側との関係のふかい諸兄が、のり込み、仕込み等に要する時間等を緊密に打合せ。できれば、当事者側の私たちに直接に御一報願えればなお幸甚である。最後に理解ある諸兄の御協力を特にお願ひするものである。

栃木会館 平川 賢次郎

福祉厚生委員会に望む (ニュースより転載)

私は、二月の総会に於いて新たに福祉厚生委員会が発足したことに、舞

台照明家協会の進むべき進路に一つの方向が開かれたものとして嬉しく思います。

そこで早速ですが、私達協会の健康問題について、希望が一つあるのですがと云うのは、私達舞台の仕事に従事している者達は、常に汚濁した空気と云う条件の下で仕事をしているために、呼吸器疾患、特に肺結核等に冒される率が非常に大きいのではないかと思います。過去に於いても、それらの病症に冒されたために仕事から退かなければならなかった例も多く、現在も私達は、たとえ意識していないにせよ、それらの心理的な不安におびやかされていると云っても過言ではないと思います。

そこで私は、それらの対策の一例として、半年なり一年なり定期的に健康診断が出来るようにして戴きたいと思ひます。現在の健康保険の制度では、健康診断は

受けられない状態です。それに協会に所属している人達の中には、健康保険の適用すら受けていない人も多いと思ひます。協会の中には、会社などでレントゲン撮影等を受けている場合もあるでしょうが、大部分の協会員はそのような恩恵に浴していないのが現状ではないでしょうか。従って、これらが実施されることによって心理的な不安が取り除かれ、また早期発見により早期診療が行われるならば、極めて意義は大きいと思ひます。

また、これらの呼吸器疾患を、一種の職業病として考えた場合、私達の仕事の分野もその中に含まれる要素は充分にあると思ひます。このことについての、協会及び福祉厚生委員会の御検討をお願い致します。

東京舞台照明 宮尾益兼

福祉厚生委員会に期待する

福祉厚生委員会が発足して、協会結成以来永い間の懸案だった協会会則第二章「目的」この協会は照明技術と技術者地位の向上を図り、併せて会員相互の親睦と福利を増進することをもって目的とする。」の重要な部分の推進に見通しが出来た事は大変喜ばしい事と思ひます。

会員の共済、プラン料や給与の改善運動、健康管理の問題等々難問題が山積し

て居ると思ひますが、委員会各位の高度の良識と行動力によって一つ一つ解決して行って頂けば、協会も本来の目的に添って充実に、又私達の仕事も職業として確立して行く事と思ひます。委員会の活躍を期待すると共に、委員会各位の今後の活動をお願い致します。

岩崎 令児

故神保道臣氏 故田村誠一氏

両会員の逝去に対し

心から哀悼の意を表します。

舞台照明家協会

神保君に謝まる

神保君の突然の訃報は大きなショックだった。然しどうしても本当のことゝは思われなかった。変な言い方だけれど神保君が死ぬなんてことは全く考えても見なかったことなので、災のところが未だ彼の死んだことが実感として迫って来ないのである。あの少し曲った顎をつき出した顔がヒョコリとドアを開けて入って来そうな気がしてしかなかった。

彼とは四十年来の交りで、思い出は語りつくせぬものがある。宝塚時代の仕事は立派なものだったし、仕事に対する考え方もたしかに一本筋が通っていたと思う。戦後は照明家として立派な技術を持ちながら、それを生かすことが出来なかったことは全く残念なこと

とだった。彼の照明についての信念のよなもの世の中に容れられずに、それがあって彼の晩年を不幸にしたとしたら誠に悲しいことである。それにしてもし淋しすぎる晩年だった。神保君許してくれ。君がこんなに早く亡くなるだろうとは誰も考えていなかったのだ。だからいつか必ず君を必要とする時が来るものと、のん気に考えている間に君は待ちきれないで行ってしまったのだらう、本当に申訳ないことをした。

然し君の残したものは決して消えてしまふのではない。月並な言い方だがそれは本当だ。ハッキリと残っている。それを私達は知っているのだ。そしてそれを若い人達に伝えることで君に対して犯した罪の万分の一を許してもらいたい。

田村誠一君の逝去を悼む

正会員田村誠一君は食道癌で慶応病院に入院中のところ去る五月二十三日遂に逝去されました。哀悼の念に耐えません。

不図も同じ公報に会員三人の追悼文を書かなければならぬことになって悲しさにペンも鈍りがちです。田村君も神保君と共に三十年来の友人であり舞台照明一途に一生を生きぬいた人でした。殊に田村君はその照明生活の大部分を私と職場を共にした同僚でした。神経の細かい照明家でいつも黙々と仕事をすの方の人でしたからあまり目立たないようでしたが照明家として立派な信念を持った人でした。我々が手本としてよい面を沢山持っていました。ほんとに惜しい人がじくなつて何とも云えぬ淋しい気持ちになります。こゝに慎んで哀悼の意を表します。

小川 昇

編集後記

先号までの印刷担当者大野氏が色々の都合で担当を降りる事になり、適当な後任が見当らず私(岩崎)が担当する事になってしまいました。「今度こそは何とか期日通りに発行しよう」と心に誓ったのですが、又々発行が遅れてしまいました。お詫びを致します。

四月発行を期して、昨年十一月編集担当の沼田氏の編集方針に従って会員の意見を集めるべく十二月廿日原稿依頼はがき発送までは滑り出し好調でしたが、原稿来らず遂に一月十六日督促はがき印刷以来ポツリポツリと集まり、予定した原稿が全部そろったのが六月十日、即日印刷に廻し校正、割付校正、校正と発行にこぎ付けました。

会員各位の御協力により外部依頼原稿無しで廿四頁の充実した会報が出来上った事を御礼申し上げます。

内容としては色々問題を含んだ記事が多いと存じますので読後の御意見を是非お寄せ下さい。次の機会に読後の意見特集をしたいと思えます。

次号担当 沼田勝夫
補 岩崎令児

員 会 助 賛

丸茂電機株式会社

千代田区神田須田町一ノ二四
電(三三)〇三二一・二七六七・六九八一

松村電機製作所

文京区根津宮永町二二
電(三三)六一六一

近藤電気工業株式会社

世田谷区経堂一ノ一三四
電(三三)二〇九六・九六一九

株式会社 日進電機製作所

新宿区戸塚町三ノ七四
電(三三)〇二〇六・(三〇)二四〇二

電 照 社

渋谷区伊達町六三
電(四二)六七八二・九〇四二

電 電 社

港区芝新橋四ノ六
電(三三)七九〇八・六二五九・六二四三

バグナル株式会社

港区芝田村町三ノ七
電(三三)七六一一

光研電気株式会社

品川区北品川四ノ五六〇
電(四二)五〇七〇

村山舞台株式会社

文京区歌訪町四
電(三三)一五四六・〇〇七六

不二音響テレビジョン株式会社

港区芝南佐久間町一ノ五一
電(三三)三二六一・九六七二

舞台照明家協会

会 報 才十号

三十六年六月三十日発行

発行所 舞台照明家協会

千代田区丸ノ内二ノ六
東九号館三号
電話(三三)八二一九
(小川舞台照明研究所)

編輯人 沼田勝夫

発行人 小川昇

印刷所 東明社印刷所

目黒区鷹番町六四
電話七三六四一四

(非売品)